

2025年度 町田市立大蔵小学校 学校経営計画・学校評価報告書(自己評価・学校関係者評価)

令和8年3月31日

学校教育目標 「仲よく 助け合う子ども」「よく考え 工夫する子」「体をきたえ やりぬく子」	学校経営の重点 児童のよりよい学びを支えるために「授業力向上」「授業改革」を軸に学校経営を行う 授業で勝負するために学び続け、高めあえる教員集団を目指し、そのための環境整備をすすめる
○目指す学校像………楽しく学び、自己肯定感を高めることのできる学校「褒めて・認めて伸ばす」「チーム大蔵で子供を育てる」 ○目指す児童・生徒像………明るい子 粘り強い子 思いやりのある子 ○目指す教師像……… 明るく前向きな教師 学び続ける教師 違いを尊重できる教師	重点目標の成果と課題 ◎より良い授業を提供するためにテーマ別の自主研修「タチバナシ」(週1回)と授業力向上を目指した実践共有「ふらっとイン」(随時)を掛け合わせた研究を推進し、授業改革の日常化を図った。 △大蔵小学校の研究・研修スタイルに興味を示す他校、他地区の教員と一緒に学びあうことができた。今後は学校運営協議会の委員にも授業実践や校内研修の様子を定期的に公開していきたい。 △学習内容に応じてデジタルとアナログを使い分けていることが保護者に十分に理解してもらえていなかった。ICT活用の意義やねらいを保護者に説明し、授業での活用場面を積極的に公開していきたい。

領域	教育プランに基づく経営目標	中期・短期経営目標	具体的方策	取組指標	平均	評価	成果指標	○ %	評価	分析コメント	改善策	学校関係者評価 記入欄	評価
社会に開かれた教育課程の実現	目指す学校及び子どもの姿を家庭や地域社会と共有・連携した教育課程を実施する。	地域の環境、資源、人材等を活用し、地域とともに教育活動を推進する。	学校運営協議会と連携して、目標や課題を共有し、教育の質の向上を図る。	4 必要情報の90%以上を周知・意見交換 3 必要情報の80%以上を周知・意見交換 2 必要情報の70%以上を周知・意見交換 1 必要情報の70%未満を周知・意見交換	4	A	A 学校評価アンケート「ア」②「地域との一体化」肯定的評価 80%以上 B 学校評価アンケート「ア」②「地域との一体化」肯定的評価 70%以上 C 学校評価アンケート「ア」②「地域との一体化」肯定的評価 55%以上 D 学校評価アンケート「ア」②「地域との一体化」肯定的評価 55%未満	94	A	地域連携・外部活用: 成果指標は69%で評価はBです。目標の70%以上にわずかに届かなかったものの、地域学校協働活動などは概ね実施されています。	地域連携の成果指標が70%(評価B)であったことから、今後は年間計画に基づいた活動の実施率をさらに高める必要があります。学校運営協議会(コミュニティ・スクール)との目標共有をより深め、外部講師やボランティアの活用を日常化させることが求められます。	地域と連携した活動を積極的に実施していて、学校と地域との絆が強くなっている。それが、子供たちの心身の安定につながっている。「常時学校公開」と地域・保護者に呼び掛けていて、学校をオープンにしていることが安心につながっている。今後はさらにボランティア・コーディネーターとの連携を強め、児童や教員の要望に応じた活動を実施してほしい。	A
			VCと連携し、外部講師やボランティアを積極的に活用し、地域学校協働活動の充実を図る。	4 年間指導計画に設定した地域学校協働活動の90%以上を実施 3 年間指導計画に設定した地域学校協働活動の80%以上を実施 2 年間指導計画に設定した地域学校協働活動の70%以上を実施 1 年間指導計画に設定した地域学校協働活動の実施が70%未満	3	B	A 学校評価アンケート「ア」①「地域連携教育活動」肯定的評価 80%以上 B 学校評価アンケート「ア」①「地域連携教育活動」肯定的評価 70%以上 C 学校評価アンケート「ア」①「地域連携教育活動」肯定的評価 55%以上 D 学校評価アンケート「ア」①「地域連携教育活動」肯定的評価 55%未満	70	B	情報発信(HP・学校だより): 成果指標は94%と非常に高く、評価はAです。定期的な情報発信が保護者や地域から高く評価されています。	情報の「双方向性」の検討 情報発信(評価A・94%)や公開(評価A・86%)は非常に高い水準にあります。今後は単なる発信に留まらず、周知・意見交換の質をさらに高め、保護者や地域からのフィードバックを教育活動へより反映させる仕組みづくりが鍵となります。		
		積極的な情報発信と公開への理解を深める。	ホームページや学校だよりを充実させ、学校の様子を定期的に情報発信していく。	4 月15回以上の更新 3 月10回以上の更新 2 月5回以上の更新 1 月5回以下の更新	4	A	A 学校評価アンケート「ア」③「情報発信」肯定的評価 80%以上 B 学校評価アンケート「ア」③「情報発信」肯定的評価 70%以上 C 学校評価アンケート「ア」③「情報発信」肯定的評価 55%以上 D 学校評価アンケート「ア」③「情報発信」肯定的評価 55%未満	94	A	教育活動の公開: 成果指標は86%で評価はAです。日々の授業や行事の公開が積極的に行われたことが伺えます。			
			日々の教育活動や行事等を積極的に公開していく。	4 90%以上のクラスで意識して公開に努めた 3 80%以上のクラスで意識して公開に努めた 2 70%以上のクラスで意識して公開に努めた 1 公開に努めたクラスが70%未満だった。	3	B	A 学校評価アンケート「ア」④「教育活動公開」肯定的評価 80%以上 B 学校評価アンケート「ア」④「教育活動公開」肯定的評価 70%以上 C 学校評価アンケート「ア」④「教育活動公開」肯定的評価 55%以上 D 学校評価アンケート「ア」④「教育活動公開」肯定的評価 55%未満	86	A				
確かな学力の育成	授業改善を進め、基礎的・基本的な知識及び技能の確実な習得と思考力、判断力、表現力等の育成とともに、主体的・対話的で深い学びを実現する。	教員の相互授業参観を日常的に行い、授業改革を図る。	校内研修とOJTを一体化させるため、全教員が年間3回以上の授業公開を行い、授業力向上の取組を日常化させる。	4 全学級が計画的に取り組んだ。 3 90%以上の学級で計画的に取り組んだ。 2 80%以上の学級で計画的に取り組んだ。 1 計画的に取り組んだ学級が80%未満。	4	A	A 学校評価アンケート「イ」①「基礎基本習得」肯定的評価 80%以上 B 学校評価アンケート「イ」①「基礎基本習得」肯定的評価 70%以上 C 学校評価アンケート「イ」①「基礎基本習得」肯定的評価 55%以上 D 学校評価アンケート「イ」①「基礎基本習得」肯定的評価 55%未満	92	A	基礎・基本の習得: 成果指標は92%で評価はAです。基礎的な知識・技能の定着に高い成果が出ています。	ICT活用の個別最適化	大蔵小学校の教員の向上心はOJTを通じて高まっている。教員同士が学びあう様子が多く見られ、校内研修を積極的に取り入れ、相互に学びあっている姿に活気や同僚性の高さを感じる。デジタルとアナログの効果的な活用を今後も研修していただき、子供たちの発達段階や実態に応じた力を伸ばすICT教育を実施してほしい。	B
			問題解決的な学びを通して、主体的に学び自分の考えを多様な方法で表現させる。	4 全ての教育活動において意識して取組んだ 3 90%以上の教育活動で意識して取組んだ 2 80%以上の教育活動で意識して取組んだ 1 80%未満の教育活動で意識して取組んだ	2.5	C	A 全職員の達成度評価肯定的評価 80%以上 B 全職員の達成度評価肯定的評価 70%以上 C 全職員の達成度評価肯定的評価 55%以上 D 全職員の達成度評価肯定的評価 55%未満	75	B	教員の授業公開・向上心: 成果指標は75%で評価はBです。全教員による年3回以上の授業公開など、組織的な授業改善が進んでいます。			
		デジタルとアナログの特性を生かした学習形態の工夫を行い、主体的に学び続ける子供を育てる。	学習形態の工夫(学びあいや話し合い)を計画的に取り入れ主体的に対話的な学びを充実させる。	4 全ての教育活動において意識して取組んだ 3 90%以上の教育活動で意識して取組んだ 2 80%以上の教育活動で意識して取組んだ 1 80%未満の教育活動で意識して取組んだ	2.5	C	A 学校評価アンケート「イ」②③④「学びに向かう姿勢」肯定的評価 80%以上 B 学校評価アンケート「イ」②③④「学びに向かう姿勢」肯定的評価 70%以上 C 学校評価アンケート「イ」②③④「学びに向かう姿勢」肯定的評価 55%以上 D 学校評価アンケート「イ」②③④「学びに向かう姿勢」肯定的評価 55%未満	62	C	主体的な学び・ICT活用: 成果指標は69%で評価はBです。Chromebookの活用などは進んでいるものの、活用力の育成についてはさらなる向上の余地があると分析されています。	「対話的な学び」の質の向上 授業改善の評価が75%(評価B)である現状を踏まえ、教員の相互参観やOJTをさらに活性化させる必要があります。特に、自分の考えを多様な方法で表現させる「問題解決的な学び」の場面を全学級でより計画的に取り入れることが課題です。		
			クロームの効果的な活用を推進し、めあてに応じてICTを活用できる力を育てる。	4 全ての教育活動において意識して取組んだ 3 90%以上の教育活動で意識して取組んだ 2 80%以上の教育活動で意識して取組んだ 1 80%未満の教育活動で意識して取組んだ	2.5	C	A 学校評価アンケート「イ」⑤「ICT活用」肯定的評価 80%以上 B 学校評価アンケート「イ」⑤「ICT活用」肯定的評価 70%以上 C 学校評価アンケート「イ」⑤「ICT活用」肯定的評価 55%以上 D 学校評価アンケート「イ」⑤「ICT活用」肯定的評価 55%未満	69	C				
豊かな心の涵養	多様性を尊重し、自分と共に他者を大切にすること意識・意欲・態度を育てる。	相手を思いやる心を育てる。	いじめの未然防止、早期発見に取り組むとともに、不登校(傾向)児童への寄り添った対応を行う。	4 いじめ防止の指導を月に1回以上実施 3 いじめ防止の指導を学期に2回以上実施 2 いじめ防止の指導を学期に1回以上実施 1 いじめ防止の指導を年に2回以上実施	4	A	A 学校評価アンケート「ウ」①「いじめ防止の取組」肯定的評価 80%以上 B 学校評価アンケート「ウ」①「いじめ防止の取組」肯定的評価 70%以上 C 学校評価アンケート「ウ」①「いじめ防止の取組」肯定的評価 55%以上 D 学校評価アンケート「ウ」①「いじめ防止の取組」肯定的評価 55%未満	66	C	いじめ防止の取組: 成果指標は66%で評価はBです。未然防止や早期発見の指導は継続されていますが、肯定的な評価としては「B」の範囲にとどまっています。	いじめ防止教育の早期・継続的实施	各学年の特別活動の取組を通じて、自分の居場所を見つけた児童や相手を思いやる児童が増えたと感じる。学校では規範意識をもって生活できている児童も、放課後になると約束やきまりを守れなくなる児童がいる。今後はどんな状況でも規範意識をもって行動できる子供に育ててほしい。いじめや不登校の対応については見えずらいが、教員と支援員の連携がよく分かる。また、教室に入らずにいる児童の居場所があらこちに用意されていることに学校の温かい配慮を感じる。	A
			道徳の授業や学級活動を中心として、安心して自分の考えを言える学級づくりを行う。	4 全ての教育活動を通して指導実施 3 90%以上の教育活動を通して指導実施 2 70%以上の教育活動を通して指導実施 1 80%未満の教育活動を通して指導実施	3	B	A 学校評価アンケート「ウ」②③「規範意識」肯定的評価 80%以上 B 学校評価アンケート「ウ」②③「規範意識」肯定的評価 70%以上 C 学校評価アンケート「ウ」②③「規範意識」肯定的評価 55%以上 D 学校評価アンケート「ウ」②③「規範意識」肯定的評価 55%未満	79	B	規範意識(スタンダード徹底): 成果指標は87%で評価はAです。「大蔵スタンダード」に基づいた統一指導が効果を上げています。	いじめ防止の取組の評価が66%(評価B)となっているため、学期ごとの重点的な指導や未然防止の授業をより早期に、かつ継続的に実施する体制の強化が求められます。		
		一人一人の規範意識を高める。	「大蔵スタンダード」(人もの決まりを大切に)に従って、統一した指導の下で、規範意識の徹底を図る。	4 90%以上の指導場面で実施 3 80%以上の指導場面で実施 2 70%以上の指導場面で実施 1 70%未満の指導場面で実施	4	A	A 学校評価アンケート「ウ」②③「規範意識」肯定的評価 80%以上 B 学校評価アンケート「ウ」②③「規範意識」肯定的評価 70%以上 C 学校評価アンケート「ウ」②③「規範意識」肯定的評価 55%以上 D 学校評価アンケート「ウ」②③「規範意識」肯定的評価 55%未満	87	A	挨拶の励行: 成果指標は84%で評価はAです。教員自らの挨拶を含め、良好な習慣が定着しています。	「安心して発言できる」学級づくり 道徳や学級活動を通じ、多様性を尊重し、一人一人が安心して自分の考えを言える「心の居場所」としての学級経営をさらに推進していく必要があります。		
			自らすすんで挨拶をする子の育成を図るため、教員からすすんで挨拶をする。	4 90%以上の指導場面で実施 3 80%以上の指導場面で実施 2 70%以上の指導場面で実施 1 70%未満の指導場面で実施	4	A	A 学校評価アンケート「ウ」③「挨拶」肯定的評価 80%以上 B 学校評価アンケート「ウ」③「挨拶」肯定的評価 70%以上 C 学校評価アンケート「ウ」③「挨拶」肯定的評価 55%以上 D 学校評価アンケート「ウ」③「挨拶」肯定的評価 55%未満	84	A				
健やかな体の育成	正しい生活習慣を身に付けさせ、丈夫な体とたくましい心を育てるとともに、自助・共助・公助の力を身に付ける安全指導・安全教育を充実する。	運動の日常化と食育の充実を通して、基礎体力の向上を図る。	体育の授業改善を図るとともに、一校一取組を充実させ、体力向上を図る。	4 90%以上の授業で実施 3 80%以上の授業で実施 2 70%以上の授業で実施 1 70%未満の授業で実施	3	B	A 学校評価アンケート「エ」①「運動やスポーツ」肯定的評価 80%以上 B 学校評価アンケート「エ」①「運動やスポーツ」肯定的評価 70%以上 C 学校評価アンケート「エ」①「運動やスポーツ」肯定的評価 55%以上 D 学校評価アンケート「エ」①「運動やスポーツ」肯定的評価 55%未満	80	A	体力向上・運動: 成果指標は80%で評価はAです。体育の授業改善や日常的な運動の取組が成果につながっています。	生活習慣の確立への家庭連携	体育の授業を参観していると楽しそうに活動する児童の姿が見られる。一校一取組では持久走や縄跳びなど、目標設定をして主体的・意欲的に取り組む姿が多くが見られる。食育に関しても、畑で育てた野菜を食した活動や本の物語に出てくる料理を献立に取り入れた給食や給食室と委員会がリンクした活動など食育の充実を図るための工夫が見られた。登下校の安全を保護者や地域に呼び掛け、見守りの強化が見られたのも今年度の大きな収穫である。	A
			食への関心を高め、家庭との連携を図りながら、望ましい生活習慣の確立への意識付けを行う。	4 90%以上の指導場面で実施 3 90%以上の指導場面で実施 2 70%以上の指導場面で実施 1 70%未満の指導場面で実施	3	B	A 学校評価アンケート「エ」②「食習慣・生活習慣」肯定的評価 80%以上 B 学校評価アンケート「エ」②「食習慣・生活習慣」肯定的評価 70%以上 C 学校評価アンケート「エ」②「食習慣・生活習慣」肯定的評価 55%以上 D 学校評価アンケート「エ」②「食習慣・生活習慣」肯定的評価 55%未満	84	A	安全意識・危機管理: 成果指標は100%(安全意識)および90%(情報の共有)で、ともに評価はAです。危機管理情報の共有体制が非常に高く評価されており、安全な環境づくりが徹底されています。	体力向上や安全指導は評価と高い水準ですが、食育や望ましい生活習慣の確立については、学校内だけでなく家庭との連携をさらに強化し、子供たちの「自己管理能力」を高める意識付けが重要です。		
		安全指導の充実、被害防止教育の充実を図る。	危機管理マニュアルの内容を確実に理解し、児童が安全に安心して学校生活を送ることができるようにする。	4 安全教育の指導を月に1回以上実施 3 安全教育の指導を学期に2回以上実施 2 安全教育の指導を学期に1回以上実施 1 安全教育の指導を年に2回以上実施	4	A	A 学校評価アンケート「ウ」④「安全意識」肯定的評価 80%以上 B 学校評価アンケート「ウ」④「安全意識」肯定的評価 70%以上 C 学校評価アンケート「ウ」④「安全意識」肯定的評価 55%以上 D 学校評価アンケート「ウ」④「安全意識」肯定的評価 55%未満	90	A				
			毎週の生活指導夕会と主任会で定期的に危機管理情報を共有し、チーム大蔵で指導の充実を図る。	4 必要情報すべてを共有 3 必要情報の90%以上を共有 2 必要情報の80%以上を共有 1 必要情報の80%未満を共有	4	A	A 全職員の達成度評価肯定的評価 80%以上 B 全職員の達成度評価肯定的評価 70%以上 C 全職員の達成度評価肯定的評価 55%以上 D 全職員の達成度評価肯定的評価 55%未満	90	A				
その他	「学校2020レガシー」の取組を通して、共生社会の実現を目指す。	人権意識、国際感覚、障がい理解等の醸成を図る。	共生の精神を育むための体験的活動を取り入れた学びを実施する。	4 90%以上の授業で実施 3 80%以上の授業で実施 2 70%以上の授業で実施 1 70%未満の授業で実施	3	B	A 全職員の達成度評価肯定的評価 80%以上 B 全職員の達成度評価肯定的評価 70%以上 C 全職員の達成度評価肯定的評価 55%以上 D 全職員の達成度評価肯定的評価 55%未満	75	B	成果指標は75%で評価はBです。体験的活動を取り入れた学びが行われていますが、次年度に向けたさらなる改善の余地があるとされています。	知識としての理解だけでなく、外部リソースを活用した「体験的な学び」の場面にさらに増やすことで、共生の精神を実感して育む工夫が必要です。	他にどんな取組ができるのか検討してほしい。	B

¥¥

取組指標の評価基準(結果数値からABCD評価へ)

取組指標平均 3.5以上	⇒ 評価A
取組指標平均 3以上3.5未満	⇒ 評価B
取組指標平均 2以上3未満	⇒ 評価C
取組指標平均 2未満	⇒ 評価D

成果指標評価基準

成果指標平均 80%以上⇒評価A
成果指標平均 70%以上⇒評価B
成果指標平均 55%以上⇒評価C
成果指標平均 55%未満⇒評価D

学校関係者評価の評価基準例

A⇒ 取組・成果ともに十分評価できる
B⇒ 取組・成果ともに評価できるが、さらに改善したい
C⇒ 目標達成には至らないため、次年度の改善が必要
D⇒ 重要な課題であるため、次年度、重点的に改善
※ 学校からの十分な説明をもとに、学校運営協議会で成果と課題、改善点について協議する。

※ 学校独自に設定する場合は、枠内を修正明記してください。